



Title	歌
Author(s)	林田, 良平
Citation	懷徳. 1930, 8, p. 85-86
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/88819">https://hdl.handle.net/11094/88819</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

二

奉職華城二十年。當時綠髮已皤然。半生寄寓適心境。吾與澱江如有緣。

余入大阪砲兵工廠實明治四十三年

三

久負鄉關萬浪華。天恩今日賜安車。素期橫槊賦詩地。却入造兵鎔鐵衙。  
幾樹疎梅護門廡。千竿修竹映窓紗。此間好恣棲遲樂。雨讀晴耕康壽加。

## 歌

元祿の昔郷賢阪上稻丸か編著の俳諧吳服絹を寫して

池田 林 田 良 平

わか里にかゝる人あり書もあり芭蕉鬼貫ごきめきし世に

享保の昔郷賢田中桐江か門生渡邊掬雲か宅の牡丹を見て作りし牡丹花記を讀みて

うたはれし千兩牡丹もその家も今はなき世そ牡丹ところに

伊丹良蓮寺跡にて

奈良の代の瓦ひろふと松原の大き百足をあまたゝひ踏む

箕面にて

杉の間に咲きてそよきをくなたふれ櫻うゝると杉きりはらふ

## 伏尾久安寺にて

時鳥ここをどく去れひま人に會はぬ貼り紙この寺にあり

## 月 冷 た く

仲 田 應 弘

## 堂友會宇治行 二首

自動車の搖れはげしけれ先生の大きみからだひた押して來る (吉田先生)  
雨雲のゆき交ふ山を見あげつゝ歩みおくれてわがひとりなる

○

地虫のこゑききすましをる夜の更けの疊、月の冷たくもさす

藤棚の茂みをとほす眞ひる日のはだらに清し椽に坐るも (羽衣、村田氏邸)

## 泉北郡久世村、荒山神社三首

谷底の若竹むらの搖れゐるを眺めつゝ涼し夕山風は

時鳥きこえずなりし向山の松の眞青く夕日かげさす

夕日光あかあかさせり松山のこのもかのもに鳴き立つ山蟬

○

軒先のかたばみ草やこの幾日つづくひでりに白くなりける  
窓のへにはひからみたる草の葉の眞晝を光る露こりてをり  
朝よりのくもり重重しこの儘に思ひを耐へて行かれずわれは